

## 12年ぶりの赤岳

(報告) Oh

◎山行期日 2016年12月19日～20日

◎メンバー Nakamic(L)、Aka、Tsuka、Oh

3号前のシリウス・ジャーナル(第47号)にAka会員が「9年ぶりの八ヶ岳」という報告を書かれているが、私にとっても今回は12年ぶりの赤岳であった。7年程前に腰椎骨折をして以来、その後の頸椎骨折なども重なって雪山からは遠ざかっていたせいもあるが、それにしても、冬期でもアプローチが近くて入山しやすい赤岳周辺の山稜に12年間もご無沙汰していたということは、マ、山行に対する私の精神と体力の衰退を如実に示すバロメータと言っても過言ではないところが悲しいところである。

かって、積雪期の赤岳には大同心稜、石尊稜、阿弥陀岳北稜などのバリエーション・ルートも登ったが、Akaさんと元会員のN御大との3人で登った12年前の石尊稜以来、全くのご無沙汰となっていたところに、上の御三方からお誘いが掛かって身の程も弁えずに飛びついたという次第である。

さて、美濃戸までTsukaさんのナントカいう名前の馬力の強い名車で入れたのが有り難かった。美濃戸口から美濃戸まで、通行して来る車を避けながら狭い単調な林道を1時間半ほどトコトコ歩くのは往生である。歩いている場合には入って来る車にコンチクショウメと悪態をつく一方、車上のヒトになっている時には歩いている登山者を尻目に掛けながらのルンルン気分であるからして、人間というのは誠に勝手なものではある。

美濃戸の山荘で山菜ウドンの昼食を喰ってから、雪化粧した柳川北沢を登り始めた。週明けであるので雪道はバッチリ踏まれており、雪質もキュッキュと乾いていてアイゼンを付ける程でもなく快適な登りとなった。天気は風も無く暖かくて快晴の上出来。明日の好天を期待させるに充分であったが・・・。北沢の樹林帯の間から大同心・小同心などの横岳西壁が西日を受けて輝いて見え始める手前で、会員のSekiさんが下山してくるのにひょっこり出合った。赤岳鉱泉のアイスキャンディーとジョーゴ沢でアイスクライミングを堪能して来たそうで、ルンルン顔で駆け下って行かれた。若い人は違うナア・・・。

赤岳鉱泉には未だ陽が高い午後2時に到着。アイスキャンディーでも“舐め”てみる時間はたっぷりあったのだが、マ、これは年寄りの冷や水と遠慮して、早々に暖房が効いた鉱泉の個室に潜りこんでアルコールをチビリチビリやりながら山談義に花を咲かせたのであった。

会のことにも話が及んで、会員の高齢化が激しいこと、何とか若い世代の方々に入会して貰いたいがお勤め最前線の世代は山どころではないこと、従ってシゴ

トの方の先がそろそろ見え始めた第4コーナー組や定年前後の世代をメインマーケットとして、彼等が会に期待するであろう山行プログラムやイベント計画を打ち出す必要があること、彼らはその年になって初めて登山を始める人種であったり、昔取った杵柄を何十年か振りに再開する人々であるから、プログラムにもそれなりの工夫が必要であること、また、自然・環境活動やアウトドア教育活動などを行っている他の団体などとの連携活動も必要になってくる云々・・・。論壇風発、幾つかの名案(迷案)も出たが、これらについては会の役員や若い諸兄姉のアイデアに期待したい。

さて、翌朝は4時半起床、5時半出発。昨夜は少し降雪があったようだが、気温はやや生温い感じでキリッと引き締まった冷気が感じられず空模様もイマイチのようだ。天気予報によれば絶好の雪山日和になる筈であったのだが・・・。そういえば、昨日は晴天ではあったものの、赤岳稜線の上に吊し雲が掛



(大きく“成長”したアイスキャンディーくん)

かっていたが、これが曲者の前兆だったのかも・・・。

登路に採った地藏尾根は積雪 50cm 程、ハシゴは一部出ていた。トレースはあったが、昨夜降った雪が薄く被っていて尾根上部のミックス帯ではトレースも消え、また小雪も降り出して視界が悪化、先頭に行く Nakamic さんもルート確認に時折首を傾げている様子だった。赤岳稜線に出る手前に祀ってある小さなお地藏様は雪上に出いたので、地藏菩薩の御真言を唱えて下山までの安全を祈った。「おん かかかびさんまえい そわか」。



(急な地藏尾根を登る)

赤岳稜線に出た頃から風雪が強まり、ホワイトアウト気味になってきた。最大瞬間風速 20m/s、気温マイナス 10℃、雪粒に叩かれる頬が痛い。眼鏡のレンズが凍りついて盲目状態。仕方なく眼鏡を外して歩いたが、これがまた眼くら状態。風雪には吹かれるわ、眼は見えないわ、おまけに鼻水がつららになるわで、赤岳山頂直下の急坂をウンウン唸りながら登って行ったが、これはもう地獄。冬期の赤岳稜線ではこの程度の天気はむしろ上天気の一部類だが、ロートルにはやはり堪える。

赤岳山頂から阿弥陀方面に降る急な岩稜帯の下り口が今回は積雪の具合でちょっとヤバイ状態になっていて、万が一ここで滑落すればあの世行きになるからロープを出した。赤岳山頂から文三郎道分岐までの岩稜ルンゼの下降は、かつては積雪期でも不安を感じたことは全く無かったが、今回はかなり緊張し、後ろから見ていた Aka さんの話では、私の足は相当ビビっていたそうだ。積雪が未だ少なくてゴロタ石のミックス帯になっていたのでアイゼンで歩きにくかったこともあるが、これが 10 年間のブランクというものだろう。



(ホワイトアウト気味の赤岳への急坂を登る。左奥は北峰)

文三郎道のハシゴは未だ金網が出ている箇所もあって、時々アイゼンの爪が引っ掛かったりした。行者小屋から下った南沢はまだ積雪が少なく、氷結したゴロタ石の上に薄く雪が被っているミックスで歩きにくかった上に長丁場であったので、美濃戸に帰着した時は我が足腰はストライキ寸前であった。

今回は、御三方の 1 年前の前回に比べて赤岳の登下降に 1 時間余分に時間が掛かかり皆さんの足を引っ張る結果となったが、何とか 1 日 10 時間歩け通せたし、御三方からの「未だ未だ捨てたモノではないではないか」という御世辞を激励として、もうひと踏ん張り頑張ってみるかと思っている次第である。

[記録] 1 日目：美濃戸発 11：30～赤岳鉱泉着 14：10

2 日目：赤岳鉱泉発 5：25～行者小屋 6：15～地藏頭 8：45～赤岳頂上 10：30～行者小屋 12：40～美濃戸 15：40

「会員の山行リスト」に戻るには画面最上部左端の[戻るボタン](#)  で戻って下さい